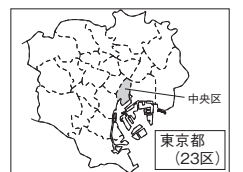




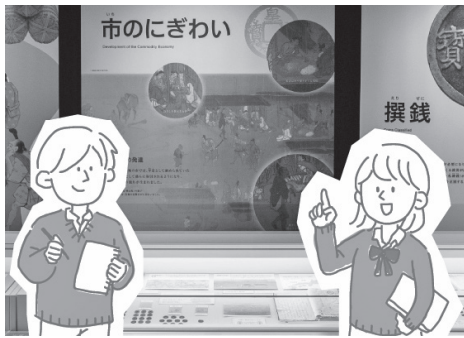
## 毎日つかうお金の歴史をひもとく カヘイハクでまなぶ

日本銀行金融研究所貨幣博物館 主任学芸員 関口 かをり



### 高校生が共通テストで 貨幣博物館を往訪!?

2021年度大学入学共通テスト「日本史B」で、高校生が「貨幣の歴史」の学習のために博物館を往訪する、という設定の問題が出題された。テストに登場した「博物館」は架空の存在だが、出題内容は、古代のお金の発行とその政策、<sup>注</sup>銭さしを描いた絵画資料の画像や解説、小判の改鑄<sup>かいちゆう</sup>の変遷など貨幣博物館が想起されるものであった。そしてこの問題設定のように、貨幣博物館には春秋を中心に多くの高校生・中学生が訪れる。



共通テストの出題と同様の展示

貨幣博物館のメインの展示は「日本のお金の歴史」Ⅱ「日本貨幣史」の常設展示である。博物館の分類でいえば、「歴史博物館」であり、お金の歴史の「専門博物館」であり、そして日本銀行が

運営していることから「企業博物館」として分類されることもある。少し特殊な博物館に思われるかもしれないが、教科書や資料集など多くの学習教材には、貨幣博物館で展示されている「和同開珎」や「石州銀」「大判」の写真が掲載されており、学校教育とも繋がりが多い博物館である。

### 学生の来館の増加と親しみやすい 展示へのリニューアル

2015年、貨幣博物館開館30周年のタイミングでリニューアルを行った。リニューアル前は、大人をターゲットとし、重厚感ある雰囲気の中で、解説パネルの展示を主体としたスタイルであった。しかし2000年代、中学・高校を中心とした修学旅行生、首都圏の学校の校外学習の生徒の来館が増え、夏休みには小学生など低年齢層の増加も顕著であった。そのため、リニューアルにより「わかりやすさ」「親しみやすさ」を重視した展示空間に一新した。

「日本貨幣史の博物館」というと、難しく思うに思われがちであるが、誰もが日々の生活で使う「お金」がテーマの入り口であること

は強みと考えている。展示の全体を通じて「毎日使う身近なお金」の歴史をたどることを意識し、展示室の入り口では、『何が「お金」として選ばれ、どのように使われてきたか』について展示を通して考えてもらうことを主題として掲げている。また、貨幣を発行する側の視点、制度の説明だけでなく、貨幣を実際に使っていた人々の姿もできるだけ描いている。16世紀〜17世紀の洛中洛外図屏風などには、両替屋の店頭の様子をはじめ貨幣を授受する場面が描かれており、そういった絵画資料の画像を多く展示している。

共通テストで取り上げられた「鎌倉時代の市場の図」の展示を高校生が見て会話している」場面もまさにその一つである。

また学生や子どもなどに関心をもってもらうための工夫の一例として、各のぞき型展示ケースには「問いかけ」を置き、その答えは展示ケースの中でできるだけ実物資料を通して探してもらう形にしている。各時代には、体験型の展示のテーブルがあり、派手なしかけはないが、昔のお金の大きさや重さを体感したり、江戸時代や現在の紙幣の偽造防止技術を体感する展示を通して、楽しみながらお



体験展示で学ぶ高校生



学校団体向けプログラムの様子

また生徒達の学びの意識を重視し、学校の先生か

らの枠で、予約制で受け付けている（ただし、現在、感染症対策により、受入人数や説明時間は、状況により随時変更している）。

## カハイハクでまなぶ 学習プログラムと学習ツール

当館へ教育旅行で訪れた際に利用可能なプログラムや学習ツールを紹介する。なお、プログラムへの参加如何を問わず、当館の利用は無料である。

### ○学校団体向けプログラム

貨幣博物館は、主な展示資料である貨幣が小さいことから、展示室内で大人数へ解説することは難しい。そのため、クラス単位（40名程度まで）の学校向けにレクチャールームで、10分の概説ビデオを観覧した後に、展示のみどころを学芸員から15分程度説明する学校向けのプログラムを設けている。小学校・中学校・高校が対象で、9時半または10時から

金について考えるきっかけとなるようにしている。

らの直接の申込みとしており、その際、学びの目的を聞き、できるだけその目的に添える内容としている。

本プログラムに参加した引率の先生からは「はじめに講義を受けてからの見学だったので、生徒は興味を持って見ることができ、教科書に載っている資料の現物を実際に見ることができるのは大変よいと思いました。施設内もきれいで生徒は十分に楽しめたと思います。」（中学2年引率）

「日本史につながる部分も多く、生徒も興味を持って見学していました。」（高校1年引率）などの声が聞かれている。

### ○学習ツール

「お金の歴史を考えよう」…入館時に主として小学生から中学生向けに配布している。みどころなどの各種情報のほか、時代ごとに問いがあり、展示を見て答えをさがす仕立てになっている。解答は展示の中にあるため、配布していないが、展示室内に、展示のどのあたりを見ると答えを見つけられるか、ヒントを掲示している。

「貨幣博物館学習シート」…中学校の歴史を既習の生徒を対象とした中学生・高校生向けのワークシートである。ホームページに掲載しており、来館前に学校等で出力し、事前に教科書や資料集等で学ぶことも、展示室でホンモノの貨幣を見ながら学ぶことも、あるいは見学後に振り返りながら学ぶことも可能である。本ワークシートについては、先生向けの



「学習シート」を利用する高校生

手引きと解答編も併せてホームページに掲載している。

「音声ガイド」…来館者自身のタブレット（またはスマートフォン）とイヤホンにより、再生可能な音声ガイド（無料）も2019年より導入しており、興味のある展示ケースのみ解説を聞くこともできる。

なお2022年9月にホームページをリニューアルし、「カハイハクでまなぶ」ページを設け、これ以外にも多くのワークシートを掲載しているので併せてご覧いただきたい。

展示のリニューアル、学校団体向けプログラムや各種学習ツールの導入は、寄せられるニーズも参考にして実施してきた。今後も利用者の声に耳を傾けながら、改善を重ねていきたい。

注：複数の銭の穴に紐を通して一まとめにした束

### 【問い合わせ先】

日本銀行金融研究所貨幣博物館  
東京都中央区日本橋本石町1-3-1  
TEL: 03-3277-3037  
URL: <https://www.imes.boj.or.jp/cm/learn/> (カハイハクでまなぶ)